



古今  
奇談

好  
那  
之  
話  
卷  
六

貳  
輯



卷六

^ 13  
3138  
3



へ 13  
3138  
3

皿屋

古今奇談繁野話第一卷

五 白菊の方猿掛の岸に怪骨を射る話

古人云鬼神と山魅の類と幽現の別あり山魅本客岡兩猿掛乃  
類ハ皆形體あるの物時々のて形を隠し時々のて形を現と是より  
一靈明を使ふは巧拙の分あり巧なるは物を役使し人の氣を發じ  
心拙きは靈を役して人よ役する鬼は人役して土中よぬのなる骨  
肉は土よ属し其氣れ發揚して空よある成鬼の神とす體をく登  
るは是より尚異常あり者なるは糸を降く響み人のかよ交  
り近うして其跡を異る人よ托して語り人よ附て靈なりしむ  
形體かれゆ人なる取わく身れ然なく靈を示せばゆり人のよふ  
とゆやも悪かるい怪鬼の虎よ使は物沐の人のなるふ今多類あり  
凡そける人並は種々の有情の物皆神ありて物よ附き人よ托し

昭和九年九月十二日 購求

くるふ死鬼の神よりし霊かり。將身と先ふして人の名を後よ  
 と。是は若者の天情として世の人多く免れ放し自躬へ其神  
 の通づる所ありて他人の知よ及ぶるなり。上古山門草木  
 と。岡岡と人指し密なる山魅の類人よ近く形を現して人間と  
 交る。人皆山魅の為を恐る。後世人民繁息し山を閉き海と  
 築て其食を足し。險を通り水と引て其運轉したるなり。人  
 跡をぬき地平うかんば人ありて居る。龍蛇蟻狼忍れて  
 人よ遠ざかる。山魅固而尤も霊かりざるをく深く恐て人間よ  
 近はらず。後の人多く目よくらうなり鬼と魅との分とあざど混  
 して一に。又古への怪事をばて。今にぞるをみて疑をたともあり。  
 古への名しをみて今にありて理を証ふりあり。又古への  
 へ今にあり。今にありのり古にありとつるの。時瘴をさるる  
 虫の見りり毛ねい文がたがや天竺よ近く回長生とあり求めずしてよく  
 糸知し。巢居目とあり穴居とあり深山大澤何の怪なりと人。若  
 本國よ往來する商客。本曾の妻を龍とす。脚を傷り夜日湯浴。  
 寒暑の異同も長夜に説き尽し地を産物と計に今にあり柄。其里よ  
 祖上よりく信る老人座よりて云。げを妻と名にさるる。女く  
 いふれある中よ老が先人ども。ひらけり。長物渡の信る。回舎人の口鈍く  
 流り出せる。事怪しくさし。識よよと事。の妖霧をひきて。あ  
 茶の味よ。是よ自の用の。説き。清和天皇の時。美濃守源朝長  
 頼を信濃守と特任せし。其時依中れ。岡に屋を領し。分  
 頃守。蕭。権門の吹。擧よ。信濃。採よ。岡。妻女を。登  
 せ。る。人。等。を。具。て。本。國。路。日。敷。歴。て。死。後。に。信  
 濃。の。界。か。る。岐。嶺。の。深。坂。よ。り。ぬ。小。原。分。紆。袖。よ。露。け。て。險。き。路

くるふ死鬼の神よりし霊かり。將身と先ふして人の名を後よ  
 と。是は若者の天情として世の人多く免れ放し自躬へ其神  
 の通づる所ありて他人の知よ及ぶるなり。上古山門草木  
 と。岡岡と人指し密なる山魅の類人よ近く形を現して人間と  
 交る。人皆山魅の為を恐る。後世人民繁息し山を閉き海と  
 築て其食を足し。險を通り水と引て其運轉したるなり。人  
 跡をぬき地平うかんば人ありて居る。龍蛇蟻狼忍れて  
 人よ遠ざかる。山魅固而尤も霊かりざるをく深く恐て人間よ  
 近はらず。後の人多く目よくらうなり鬼と魅との分とあざど混  
 して一に。又古への怪事をばて。今にぞるをみて疑をたともあり。  
 古への名しをみて今にありて理を証ふりあり。又古への  
 へ今にあり。今にありのり古にありとつるの。時瘴をさるる  
 虫の見りり毛ねい文がたがや天竺よ近く回長生とあり求めずしてよく  
 糸知し。巢居目とあり穴居とあり深山大澤何の怪なりと人。若  
 本國よ往來する商客。本曾の妻を龍とす。脚を傷り夜日湯浴。  
 寒暑の異同も長夜に説き尽し地を産物と計に今にあり柄。其里よ  
 祖上よりく信る老人座よりて云。げを妻と名にさるる。女く  
 いふれある中よ老が先人ども。ひらけり。長物渡の信る。回舎人の口鈍く  
 流り出せる。事怪しくさし。識よよと事。の妖霧をひきて。あ  
 茶の味よ。是よ自の用の。説き。清和天皇の時。美濃守源朝長  
 頼を信濃守と特任せし。其時依中れ。岡に屋を領し。分  
 頃守。蕭。権門の吹。擧よ。信濃。採よ。岡。妻女を。登  
 せ。る。人。等。を。具。て。本。國。路。日。敷。歴。て。死。後。に。信  
 濃。の。界。か。る。岐。嶺。の。深。坂。よ。り。ぬ。小。原。分。紆。袖。よ。露。け。て。險。き。路

み歩宅まへみ歩る。人馬共よ疲勞と。改るむいふ。又法と信法と。通踏不便なりと。文武の時波蕪山道を開れ。岩と碎き様とを。當時何とすに多も。踏定まか。え。此山中。烟瘴はく。妖怪出。没。附来多。か。人。手。控。開。凡。甚。悪。而。方。及。の。苗。山。中。人。跡。こ。ら。ざ。る。而。多。し。い。だ。この。程。も。辨。と。答。と。い。所。あり。後。世。其。地。さ。う。う。ら。ど。其。懐。よ。つ。の。洞。あり。隱。ま。汁。山。石。窟。と。い。た。い。霧。ま。こ。め。て。こ。こ。を。格。定。め。り。て。救。十。年。の。内。と。多。く。あ。り。た。洞。の中。は。宮。殿。が。成。り。て。と。あり。山下。の。人。は。い。い。海。へ。も。て。お。送。り。成。る。所。へ。早。く。其。所。を。を。り。去。る。若。た。め。り。て。之。と。あ。ん。と。す。れ。ば。忽。ち。空。より。大。石。を。落。り。粉。碎。と。す。此。洞。ふ。つ。の。怪。物。あり。あ。り。あ。り。一。片。は。雲。と。な。り。て。飛。行。と。な。り。今。より。名。を。つ。けて。飛。雲。と。い。其。本。身。は。細。糸。の。様。あり。神。代。より。こ。こ。を。こ。こ。を。通。廣。大。變。化。き。ま。あ。り。ぬ。朝。夕。す。務。を。勤。む。て。山。は。死。な。ず。人。も。こ。こ。を。ど。飲。き。物。を。撮。り。偷。り。ふ。か。は。但。せ。ぶ。る。な。く。時。々。人。を。と。づ。り。し。宮。殿。か。も。も。佛。亦。も。こ。こ。を。制。と。る。と。あ。り。た。酒。は。飛。ぶ。れ。ば。飲。む。と。あ。り。よ。飛。ぶ。れ。ば。云。ど。陰。陽。採。補。の。術。を。乃。そ。長。生。れ。る。成。煉。也。近。國。諸。山。の。妖怪。山。精。等。こ。こ。が。都。下。よ。こ。こ。へ。獵。獸。を。役。し。耳。報。れ。術。を。乃。く。洞。中。は。括。り。の。百。里。四。方。の。動。靜。と。す。知。り。て。孝。上。忍。尺。の。如。し。こ。こ。に。一。日。西南。の方。より。け。路。を。を。る。一。行。の。旅。人。あり。其。中。は。一。乃。張。輿。あり。飛。雲。を。送。り。送。来。と。り。輿。の。内。は。婦。人。あり。容貌。宗。雅。よ。め。て。る。顔。花。の。ど。く。ま。た。似。たり。其。支。干。と。相。察。と。り。既。は。十六。年。は。て。夫。夫。の。の。は。死。今。年。二十。と。年。ま。あ。よ。い。び。る。拵。来。り。酒。宴。の。興。を。流。し。と。即。時。小。山。神。小。令。と。て。往。還。の。路。上。に。一。つ。れ。旅館。を。に。現。せ。た。か。よ。宿。驛。を。け。け。は。の。か。ま。う。た。宿。久。し。遠。敷。い。う。う。て。女。を。攝。て。洞。へ。入。る。を。一。山。神。承。て。結。搦。と。ほ。俄。は。白。日。を。暗。夜。と。な。え。

み歩宅まへみ歩る。人馬共よ疲勞と。改るむいふ。又法と信法と。通踏不便なりと。文武の時波蕪山道を開れ。岩と碎き様とを。當時何とすに多も。踏定まか。え。此山中。烟瘴はく。妖怪出。没。附来多。か。人。手。控。開。凡。甚。悪。而。方。及。の。苗。山。中。人。跡。こ。ら。ざ。る。而。多。し。い。だ。この。程。も。辨。と。答。と。い。所。あり。後。世。其。地。さ。う。う。ら。ど。其。懐。よ。つ。の。洞。あり。隱。ま。汁。山。石。窟。と。い。た。い。霧。ま。こ。め。て。こ。こ。を。格。定。め。り。て。救。十。年。の。内。と。多。く。あ。り。た。洞。の中。は。宮。殿。が。成。り。て。と。あり。山下。の。人。は。い。い。海。へ。も。て。お。送。り。成。る。所。へ。早。く。其。所。を。を。り。去。る。若。た。め。り。て。之。と。あ。ん。と。す。れ。ば。忽。ち。空。より。大。石。を。落。り。粉。碎。と。す。此。洞。ふ。つ。の。怪。物。あり。あ。り。あ。り。一。片。は。雲。と。な。り。て。飛。行。と。な。り。今。より。名。を。つ。けて。飛。雲。と。い。其。本。身。は。細。糸。の。様。あり。神。代。より。こ。こ。を。こ。こ。を。通。廣。大。變。化。き。ま。あ。り。ぬ。朝。夕。す。務。を。勤。む。て。山。は。死。な。ず。人。も。こ。こ。を。ど。飲。き。物。を。撮。り。偷。り。ふ。か。は。但。せ。ぶ。る。な。く。時。々。人。を。と。づ。り。し。宮。殿。か。も。も。佛。亦。も。こ。こ。を。制。と。る。と。あ。り。た。酒。は。飛。ぶ。れ。ば。飲。む。と。あ。り。よ。飛。ぶ。れ。ば。云。ど。陰。陽。採。補。の。術。を。乃。そ。長。生。れ。る。成。煉。也。近。國。諸。山。の。妖怪。山。精。等。こ。こ。が。都。下。よ。こ。こ。へ。獵。獸。を。役。し。耳。報。れ。術。を。乃。く。洞。中。は。括。り。の。百。里。四。方。の。動。靜。と。す。知。り。て。孝。上。忍。尺。の。如。し。こ。こ。に。一。日。西南。の方。より。け。路。を。を。る。一。行。の。旅。人。あり。其。中。は。一。乃。張。輿。あり。飛。雲。を。送。り。送。来。と。り。輿。の。内。は。婦。人。あり。容貌。宗。雅。よ。め。て。る。顔。花。の。ど。く。ま。た。似。たり。其。支。干。と。相。察。と。り。既。は。十六。年。は。て。夫。夫。の。の。は。死。今。年。二十。と。年。ま。あ。よ。い。び。る。拵。来。り。酒。宴。の。興。を。流。し。と。即。時。小。山。神。小。令。と。て。往。還。の。路。上。に。一。つ。れ。旅館。を。に。現。せ。た。か。よ。宿。驛。を。け。け。は。の。か。ま。う。た。宿。久。し。遠。敷。い。う。う。て。女。を。攝。て。洞。へ。入。る。を。一。山。神。承。て。結。搦。と。ほ。俄。は。白。日。を。暗。夜。と。な。え。

英州後編卷之三





何の面目ありて再命と云きと抱狂しきと小懐まどもいふ身は  
あり怠漫しごと。其取を考して國に府より。國に調を  
王爺の様を代りて幸し目の旧きは強まるん密に身のう人とあ  
る勢を回すありとて。ありとは人より對面なり。此病ありと披露  
引然する傍りて公服の家の子三人を泣く女房の生死と云痛むん  
やびくどと痛むるありて。後方の難取をとりて及た死すまで  
揮り迷ふ。白菊の方へ變じし擧は洞のうらやうりても。あつて  
あつてりし人よりけきと。ぬい鬼の洞よりやせしけりよと云  
ば胸つらして涙湧て涙る。休目よりめぐる。怯弱をえられ。媚り  
女房幾人も伏侍て大おとと云く。て教赤く鼻尖り。身れけけ  
むらり。仁王のどれが後の衣服は。はとりは怯内をゆる死す。白菊  
の傍りむいれ近づき。縁あれどもをけあまむ。人ほまげ。洞のうら

いこの世界よりとて。あに来る。ぬ女の身と捨て。教通かり。はげ  
かげき。死すて我よりよくなご。長生を樂め。て。死とて。細や  
よめ。入む。白菊へ彼が。吳極し。思ろ。き。氣と。魂と。雲間より。死む  
ア。か。た。目より。ぬ鬼の。とり。あ。り。な。く。を。ろ。ふ。を。か。け。ら。う。は。る。り。り。  
死。は。よ。く。は。愛。れ。よ。白。い。自。は。さ。う。く。け。不。の。樂。も。死。死。守。迷。死  
せん。て。成。念。ど。氷。乃。の。振。也。あ。ら。ば。古。法。喰。も。死。を。き。と。と。げ。し  
詞。の。悪。は。い。の。ん。白。き。耳。根。も。黒。き。髪。の。こ。は。ま。う。り。泣。低。一。夜  
乃。此。粧。の。泪。も。洗。り。れ。る。さ。ぬ。悩。り。る。西。施。は。る。盧。氏。昭。君。出。塞。風。愛  
容。揚。妃。馬。嵬。の。愁。眉。も。あ。や。せ。り。ま。は。ら。ん。天。竺。の。國。色。も。よ。せ。ま  
ば。身。と。や。笑。ら。ん。と。女。房。等。も。あ。せ。を。誘。た。け。あ。れ。ん。と。ん。多。の。女。房  
いで。あ。り。い。ざ。と。怯。羞。も。引。ん。と。ん。白。菊。是。を。拒。て。我。官。人。の。妻。と  
して。由。り。死。不。の。怯。内。も。入。る。べ。の。う。ど。と。勢。氣。成。は。う。い。中。小。按。て。勅。す

死雲笑て生人又熟言べうん我の小室又一睡して前夜の夢と息  
んとめらぎぬぬ女房の中にも此死阿弥らうりてわらぬのうこ成  
つてまうかざりぬさあぐまをぬくころ久斯なるうい長くうらまを詮  
りたころり者より卑き朝顔とていつらとさげざりてとどめ  
まねくも皆涙ぬ中とさめさるころり流れて逃れ出んとさる  
て幾度かたどら山中の方格を執りては旧の蹟よりうら  
出るとあざりぬ既又ふふ美の春成るころり内方の今愛紀を初て足  
らあひのどくが家むくはけき貌又あらずともえより女の男は  
醜を論どきめあらずけ愛紀里又出ておつた其さ女優は  
まろく國司の形骸をなす其人柄とぐれてうらりたあねがごとく  
いをさうて流りや朝夕又別まべるとあねがごとく流りたあねが  
心を用てめらみあはむむされをまねくが如きも死をさきん命と

ぬとみりかたれ生ぬむさがりくろの風のとあふ吹き一水の海  
取とあそ待身とはかりぬ又従はばは若成あふはく懲りぬ  
遂に妖術又惑く誘ふときさるの早く流るをぬつたといふ  
と和らふささむれど白葉答へどら世縁を女房ども詞にきそ  
の人心はあざりと下きこめ死雲今は大よいうて白菊を下家  
下洞の中れ用水を遠きん汲とせ衣服を洗入賤の役とるさ  
しむ白葉却てこそとらけき葉よあひ日くみさふらつて水と汲  
と衣をあひひげいやき葉をたんと身と汚とよははさりぬと  
心よ足りて故心の土神を祈り再び家よぬじわあ人とおせぬ白  
かめりき洞の中口敷はさへ糸も月のあき成月のあきとるさ  
多の後死雲は其容色の蒼くは衰へて成廣ひさぐり縁を  
をゆりて貌を中流りむ一日有霜と宴を設けてその成壽は白

英州府後編卷之三

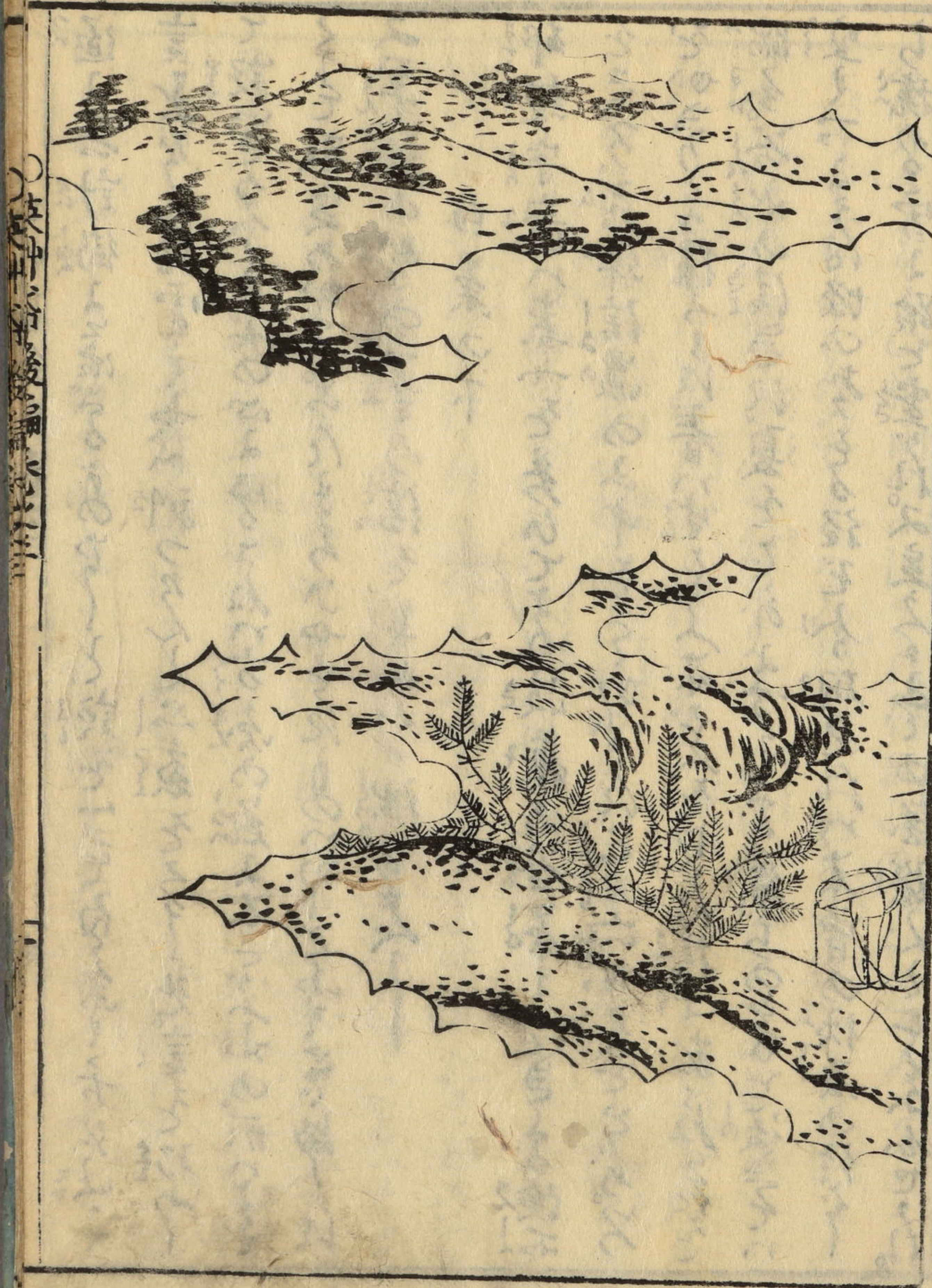


菊を酌しあじむ。室の緑樹。此花梁。梁吳の竹など。宴は  
了。其餘の女。縁ふきひ竹。秋の鳥。席は白。葉志きりに眠と  
侵と。入。愛に。女。さうに相押。て。戯。あ。を。目。の不。祥。は。使。と。く。と  
俯。つ。ま。酌。と。く。久。か。が。ゆ。り。く。移。ひ。り。て。酒。を。こ。が。と。も。あ。ら。ず。飛  
雲。と。う。あ。く。罵。て。奉。と。あ。げ。撲。ん。と。や。が。け。罪。科。は。世。座。より。重  
よ。谷。二。つ。あ。ら。さ。の。瀧。を。沿。て。来。ま。と。と。あ。り。あ。り。ぬ。白。葉。は。う。美。あ。や  
ま。ら。せ。り。と。身。れ。泥。を。ち。り。桶。を。肩。は。して。蹊。を。め。り。海。は。は。流。ひ  
ら。ち。油。み。躍。て。と。く。と。ど。け。世。な。う。も。あ。ら。せ。あ。ら。せ。今。命。と。お。と。成  
就。と。る。極。か。り。愛。に。が。今。菊。と。を。及。よ。と。勝。人。か。れ。も。年。経。と。ら。あ。る  
し。な。う。ん。う。ら。と。死。ん。命。を。ほ。ぎ。と。及。な。れ。人。の。果。と。と。て。悔。と。と。と  
ぶ。愛。な。と。の。み。ろ。ぎ。う。り。の。流。り。り。成。二。つ。の。桶。と。と。の。が。せ。た。め。た。よ。と  
休。む。る。あ。ら。珍。じ。や。其。こ。の。う。と。世。中。の。人。と。と。い。は。は。う。ふ。人。ま。さ。う。と。と

向の峭をつつひ。及。な。れ。は。葛。を。引。く。也。ア。来。ふ。人。あり。弓。矢。の。と。負  
ひ。ち。刀。刀。お。び。う。ろ。撮。人。な。う。ん。と。進。げ。と。と。れ。れ。を。夫。守。兼。な。り。う。ろ  
こ。う。う。つ。う。う。と。な。う。と。早。く。も。れ。を。よ。て。女。ま。り。泣。て。詞。出。だ。守  
と。且。お。び。且。の。な。う。げ。ふ。我。は。別。て。よ。う。家。と。と。と。泥。を。擲。て。け。い。つ。と  
きの。麓。乃。里。と。と。あ。ら。い。ひ。糸。糸。を。あ。ら。う。と。既。は。二。月。と。あ。あ。ま。う。今  
日。と。に。あ。り。あ。ら。と。と。夫。女。の。縁。及。う。う。と。た。が。ひ。は。涙。く。泣。の。う。ろ。お  
し。河。お。の。所。乃。た。ら。と。と。同。な。れ。と。身。の。憂。と。と。飯。倉。の。ふ。ま。は  
さ。ら。つ。と。と。成。の。う。ろ。の。う。ろ。と。愛。に。と。と。と。あ。ら。い。洞。は。是。より。二。め。よ。う。め。り。う  
家。の。後。と。か。ん。け。り。と。語。を。成。て。守。兼。け。悔。か。と。成。を。と。と。逃。ゆ。る  
とも。津。屋。の。妖。怪。十。里。と。は。の。び。さ。と。あ。ら。い。返。洛。せ。ん。と。と。佛。津。の。力  
と。か。と。と。は。い。う。る。奉。守。を。せ。ん。や。人。多。く。怪。し。後。の。十。日。よ。う。と。と。来  
ま。か。と。と。は。出。合。兼。内。と。と。を。洞。と。斬。入。ふ。べ。し。其。あ。ら。い。は。氣。を。成

察らざりしを心をとめてはくしみ身を汚さぬ方使あそむる皮弁。  
 今此不ふ時うらぶ愛死いたるごとく我は早く立別まんと死を  
 放ちて將尉と惜しむ男を公より孝の上より座へづくくと女  
 房のさぬをこめて容色へ衰へゆるも強て括せぬを孝を申んと胡涿  
 より懸橋より出り岩水は髪のをさみせりゆへし。ゆり屋へくことむ  
 りもよりやうの申たへし。妹背のふれあり清み本の糸あ寝よ  
 んとる時。あまのあきれたるうらさぬさんばかりし宴會を  
 閑よと涙はしや愛れの縁よりゆりてあり。あまふまといひ  
 こ流たりしと。れとあしく掛ひのけを女房等ごうみとわけて笑  
 ひ是を酒宴の真とるる。飛雲も十分酔深く扶けらまて伏あし入  
 りぬ。泣よのころし女房等あまの身を熱らるれを。皆云我宴の  
 計よと涙さるれも多くなり類わたり。され程酌よ立て眠り。至の好

よ後と次へ出され。既便桶をさけ酒宴の席へ出あすう我くも怪  
 あどども。言系禁制せしり。又傍よりこころんたりし。は身ま  
 とてかりしげふ桶ををそよりとひ。髪を巻かせ別く陰とて  
 一因又笑をゆさされ格てあまあげかり。こ流る流人のあどし  
 守蔵もかり。此れえ。斯えまれとみまて。急鳥の音も霜雪よ  
 其時をさひしれて十ももなべし。故にゆりてみせり又母よ  
 一とふふ心ぬのうらむれは離きてぬべき今うてふと誓ひし  
 らへは負ふに。彼人のあどんとまらば故にに送りし。まやるる  
 あも。さふくつるも慰こし。式夜諸寢のあ破ま。それとる  
 け洞の四悔よさるるり。たれと。元人のかよめりてこも  
 子映ふ。よの家より婿が縁の途へらる。輿を路より横ぎし。れと  
 ためへいこ君の家よあると。のこひらるる。れと。我あり。庭と



英州百行巻

遂に其計術よと流ざるのかりしと説をばして白を余も古はは、  
言多かり。飛雲も女心測つらんと思ふをこそし。免言を乃め  
て説いざらんも。女の心はゆるさぬい方。急の急は去る水の形。いま  
くも取定りぬ。さうにまらばやとたのめ。かこふりさほくは  
みい千鈞の弩の一重乃信を穿ぬの理多し。

白葉の下

却説守謙の妻を失ひてより。波換の谷をよつてきよる険  
をさぐり。飛弾信濃の山中をこり。卯の二日六日足とさぐり。  
をのぎりとう獲らん。春はけとて本をけり。様は教ぬを  
踏多。谷水の清きに夏をこり。あまもろ。衆らの家とほきそい  
空しつ。ようは校のあまもろ。ほど今。胡るれば。本曾の伏屋の竹を  
ら。挽る雪と路と空がれ。又まらる。よとの急。燃んとをふんせられ。

あひめらうとよ。い進國のふ深き。は妖怪。愛他のおわらる。は  
を。まご女が命どめ。で。こい。ね。ね。で。わ。る。び。き。り。先。進。き。よ。う。遠。よ。及  
びんと。信濃一國の幽谷を捜す。えより。屋強の家の子あこ人とを  
強ひて。鉄をほみ。苔。み。跡。を。お。て。把。火。と。し。堂。殿。の。下。を。る。根。を  
林。最。原。と。極。め。谷。林。の。橋。處。ふ。紙。乃。戸。が。そ。ま。ご。教。う。て。細。心。と  
ま。ご。も。熊。の。籠。猪。の。窩。の。か。い。妖怪。乃。ほ。び。き。不。れ。又。と。ま。よ。り。あ。り  
賤の男に物語を仕うけて。捜す。同。も。深。き。山。中。か。れ。を。れ。を。し  
き。お。も。あ。や。き。飛。り。あ。り。う。ん。通。よ。び。き。路。の。か。い。を。れ。も。と。い。ま。ご  
と。ま。け。ぬ。巫。の。ま。り。と。い。う。中。あ。も。る。知。る。教。は。麻。き。ぬ。の。神。さ。く  
と。も。ふ。して。本。家。と。い。魂。清。子。お。し。わ。ん。か。れ。朽。木。核。子。系。と。精  
へ。目。つ。み。て。ご。め。れ。ゆ。か。は。よ。く。お。ま。り。乃。又。隣。ご。れ。を。お。と。雲  
い。ど。時。氣。よ。う。て。現。と。時。氣。よ。う。て。滅。と。足。を。て。ま。の。に。お。と。や

つゞき又本きたる叔父が如くし。昔より此ふかきみの洞といふ  
のありて。春の比時天はたよあけぬる時を現し。其様は棟方た辰  
指せる洞元儀はありし統つるものし。あれども。満くくひぬよかともいふ  
こゝろに。つらとも其ふん定ぬが。あれをいふれば。恐しきことあり。  
ふかせぬもの。一生の心とわよあるのやうな念とるし。ぬり。またも百  
とすよ。一夜の現り。といひ傳とる。四五十年のこのかたのれが。おぢい  
てより。其洞をいふるあり。他人の住なく。中は人ゆる。いふもあれを  
より。奥へたふ。霧ふくして。乃ちく。東南西北を別びて。樵山豊も入  
る。成ほどと。流る。守廉は。よけても。かたうと。いふ。ようや。た。とも  
ゆまぬ。そのあやと。把火先と。照させ。手勢う。なまを。勉強て。か。つて。つた  
方格と。し。ど。のうと。して。里ある。こた。め。う。なる。の。と。わ。ん。ば。ゆ。べ。き。世。の  
ま。す。一。日。他。解。す。ゆ。か。な。る。を。う。し。て。つ。の。怪。し。き。お。と。と。ん。て。  
大出敷の上よ。せ。せ。る。う。長。い。七。八。人。も。あ。る。べ。し。危。あ。く。様。い。ゆ。く。又。人。面。  
ごとく。人。を。つ。て。あ。ふ。其。姿。を。の。ど。音。の。章。人。は。似。う。あ。の。時。へ。上。  
唇。額。は。け。人。と。つ。て。母。統。ど。う。ん。ん。後。者。ど。も。これ。成。組。と。ん。ん。す。  
守廉。制。して。これ。を。と。け。け。る。耕。と。の。犬。わ。り。孫。子。と。す。ふ。し。て。る。とも  
つ。つ。い。お。の。不。あ。る。も。う。う。が。い。げ。お。を。捕。獲。は。り。た。な。も。其。力。を  
勤。を。き。ると。す。べ。か。と。い。て。勝。ぶ。う。す。我。ひ。う。う。法。よ。せ。成。成。た。う。と  
て。い。ふ。ふ。矢。と。い。ひ。這。斯。が。あ。府。と。定。て。う。ど。射。巧。も。上。唇。を  
額。へ。托。て。射。を。し。う。一。發。さ。け。び。て。出。敵。の。う。人。より。こ。う。う。び。か。ち。矢。を  
負。ひ。な。う。う。う。げ。ゆ。と。の。が。す。た。と。殊。と。あ。つ。け。け。ん。孝。ひ。う。う。と  
う。る。舌。陰。よ。岩。窟。座。の。り。て。血。体。ひ。う。う。お。か。把。火。投。こ。み。え。の。く。犬。獸  
御。ま。て。勤。を。た。頻。頻。と。衰。へ。う。う。う。危。は。と。の。り。て。や。が。て。大。石。拍  
て。頭。を。お。ひ。い。げ。べ。一。發。さ。け。び。て。其。石。と。も。ゆ。う。の。ど。く。も。う。の。不。止

たげやうて死す。窟の門を認めずとて。老のさへゆるよみちか  
一腰あり。汚汚てぬけど希有のものなり。あまごうごうたれど。鹿兔  
の引されらひ敷しるあうごん有のとなり。たゞは難而て之  
ふれバ主従すふたはう統て。月も似きぬ此窟は宿せんと皆守  
て頭を揺ていふ。案をらん狎くへ必と難破ある歎なり。今殺せ  
をらんバ断なり。今うも雄がゆりまふべいつつゆる我々ふせ死難  
あべしを穿て皆く怕まらして悔りて出ぬ。我妻のまじおのわら  
もあつれど。益かれ殺生して咄と失つてうと。我身よあひとく  
て殺もゆるべき殺へかつて。餓るれば里ふ出て人家は休息に。鬼  
角に霧立のやう奥へ人かしてあふべき及なければさすぐの犬  
まもを屋してん地例ならん。あひはくはりも理りなり。そに浦崎の  
寢るのなまよ下りぬ。茶庵を信行が後へ其後某の普つてけ

殿門はり。之依道人とて。おのゝあつとあり。持統とる孔雀明王の法は百  
佛教と漢土に駕さる。以承よ。ま仙入西域はあびて足と信てより今  
爰に傳流し。病体折子福を拂ひ。般若と樂の孩をあらはれ。面相  
ま文の指卜の件を説き示して遠つて。信心を擲て。穢蘊を求る。あ  
日日に絶と。此一七日は三種の密法を脩せし。そと諸の人。某と  
守兼遠。例道遙のあけ寺にま。道人日中の壇をたうと結うけて  
おをさし。某へさるう西園のあなるが。此園にま妻女と。妖怪と取さ。我  
は死の候を究めん。あまは棲る。三本を經らう。再命の期あるを。考  
を下し。まの候と。難をたす。道人守兼を近け。面相し。沈吟し  
て云。まの時と。守命と。合くして。行ま。且尊。圖乃。生ま。ま。齡。うん。守  
廉云。我と。た。右。飯の。産。ま。る。時。二十。三。本。今。ま。入。ま。なる。う。ん。及  
人。あ。ま。卦。を。爰。く。數。の。言。ま。云。其。乃。と。あ。く。せ。だ。得。が。れ。も。智。を。く。び。人。あ

命物たり。又問其怪。いさむおとらあふ。や。道人卦と設け。既と播て  
 云。大出之門。竈而每回。其密なること。さるに方なり。我智識。量。比  
 守。廣。相。成。ま。し。内。玄。園。は。遠。近。点。心。を。命。休。息。と。其。日。も。本。の。刻。さ。あ。り。  
 善。の。壇。は。糸。指。多。き。中。に。前。信。人。を。掛。ひ。門。か。は。あ。り。糸。お。の。め。り。近。習  
 亦。圍。玄。園。は。昇。と。鳥。帽。子。し。と。立。出。る。威。風。骨。插。小。可。の。人。に。あ。り。は。  
 後。系。へ。る。は。は。ひ。と。く。て。又。薫。の。ぬ。人。が。づ。り。て。宮。殿。は。通。り。け。大。名。及。人  
 を。お。し。何。某。へ。誦。訪。の。一。属。小。身。か。る。あ。ら。り。恐。び。請。わ。れ。を。名。の  
 じ。先。我。は。卦。を。後。り。ん。し。道。人。其。支。干。方。位。を。問。い。我。い。け。國。の。舊。家  
 なる。が。切。あ。り。疏。と。か。り。大。君。の。家。に。寄。食。し。生。辰。を。記。し。候。み。甲  
 子。を。い。て。是。に。充。道。人。卦。は。教。て。公。發。と。云。天。賜。之。光。於。謙。有。慶。是  
 人。徳。あ。り。て。後。り。火。福。つ。死。と。壽。命。へ。海。ふ。と。若。く。久。く。よ。う。り。の。を  
 け。ざ。り。た。し。ん。人。の。卦。は。あ。り。ば。生。人。大。に。怪。ひ。及。人。の。と。い。へ。ん。と。ま。は。し  
 る。ら。ん。あ。ら。ば。も。我。も。身。未。万。事。さ。の。め。た。れ。ば。道。人。の。卦。の。り。り。と。あ。る  
 し。い。ん。せ。ん。人。界。を。着。ぬ。く。過。終。の。迷。ひ。多。し。思。く。く。い。徳。を。換。え。る  
 亦。あ。ら。ん。又。る。は。ひ。の。ぬ。人。を。相。せ。む。及。人。面。相。と。命。較。あ。せ。う。と。再  
 び。其。支。干。を。問。い。問。い。あ。ら。り。と。答。ふ。道。人。卦。を。没。け。と。云。内。に。懐。て。替  
 て。差。ひ。糸。く。貞。祥。を。考。ふ。火。の。本。に。あ。ら。り。炎。ふ。と。改。め。中。し。美  
 味。人。の。婢。と。か。り。て。其。家。に。終。ん。大。名。近。侍。に。命。じ。て。金。銀。巻。物。と  
 一。せ。と。云。道。人。を。煩。つ。た。一。事。あ。り。我。後。一。卦。の。て。く。あ。ら。ん。又。と。も  
 進。は。一。つ。の。は。せ。ざ。ら。ん。れ。ぬ。り。今。日。教。を。の。法。令。に。執。て。世。を。を。り。ん  
 と。な。ふ。た。り。及。人。と。や。が。て。瞞。時。の。壇。に。登。ま。と。ん。俱。は。法。令。ふ。あ。り  
 て。け。り。も。と。茶。菓。を。付。と。て。待。さ。る。既。に。壇。に。坐。り。讀。經。の。宣。卷。れ  
 たり。香。を。ひ。わ。り。て。南。無。十。方。の。諸。天。此。一。炷。の。香。四。海。安。靜。又。穀。豊  
 登。こ。の。教。昭。明。聖。れ。君。敬。多。う。れ。又。一。炷。燃。て。十。方。施。も。後。徳。也。云

英州帝後編卷之三

拔者又樂又一炷を焼て。今け甲子の貴人如意満足なりじやと  
懇又祈りおらる。糸指の衆籤を拵て其様の事を求む。貴人の籤  
六十この有り云

はの庭より日詣てあそりへ紅の衣と襲衣とせし  
女房の拵る九十四籤云

あるたをりふのみより又あふ人いふと世の命有くとまきけ  
る人壇を下て巻板とほして多うに貴人頂戴してほび針やうす下  
向ふ。及人徒子よ命とを玄園と送りじ。守りく歴くの武家系  
諸とてきた。彼がゆりを待て道人と粧ひきこくあまべ同休隔て立  
かふ積今もそふ窺べ。太夫の後ふほいゆるぬ人丁と正しく失う我女房  
たり。太ふ驚き。妻にいたあてい太夫の仕業なりなり。誰もあれ眼お  
の然敵眼ととお法より移しいと定ぬ。あてふ練の一ふこあま

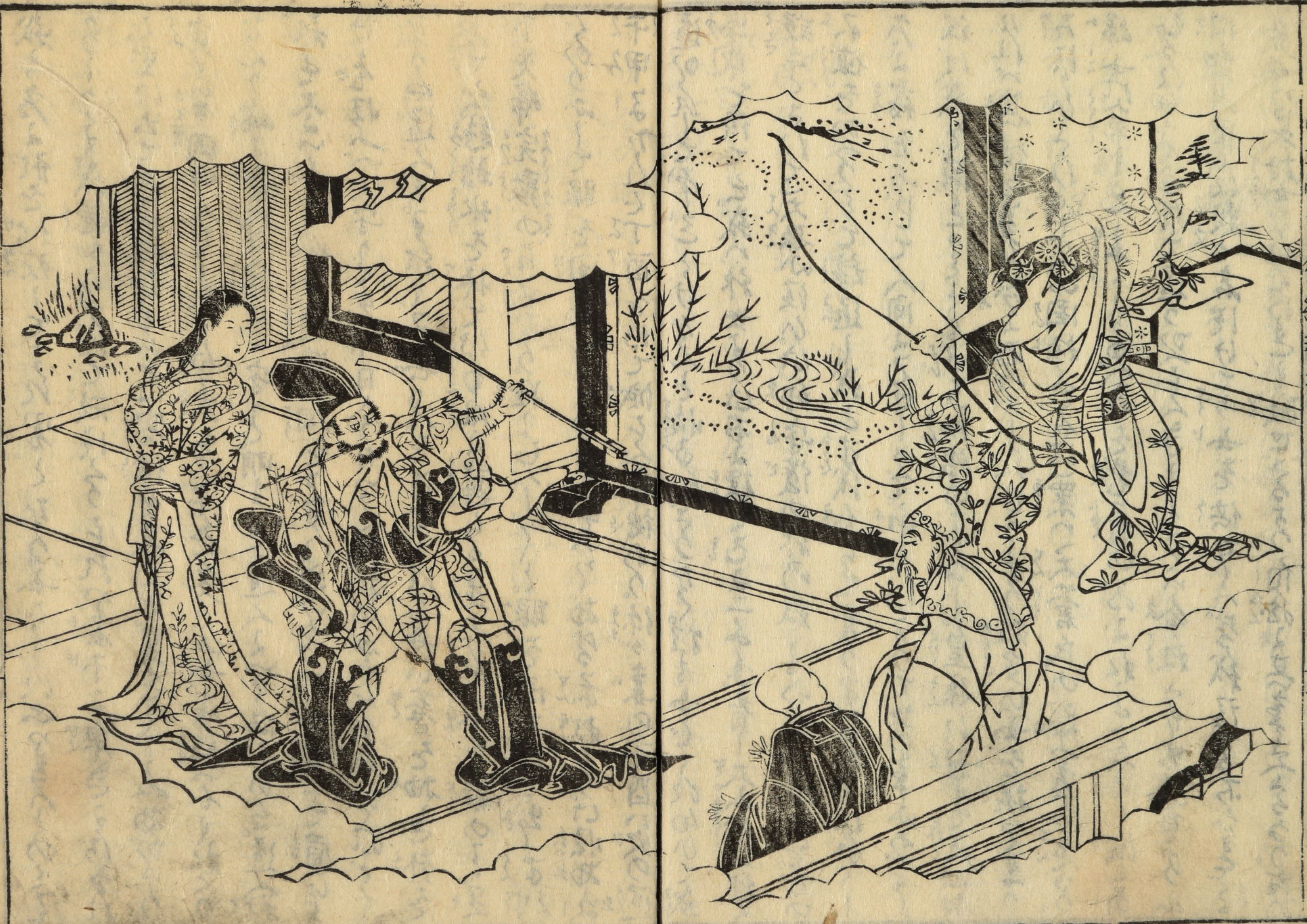
珠はぐく。多や。や。あ。の。ひ。じ。つ。つ。ぬ。て。ま。は。と。太。や。も。く。く。た。の。は  
して換りてい。續てまふ。成者のよふほむ。間もなくあるこの矢とほ  
くつて嘴さむ。とくふをるりに射る矢と巻く拂のけつり身とあ  
ど。守塵着忙。抜設て切てくると。太夫きつとむく眼のいろ。一身と鈕  
糸く。是（ど）店とくすりて。勅きぬ。白糸のりど。うりといへん。た。是  
く又神をあと言ふ。かて。あ。あ。ひ。の。る。太。夫。怒。の。相。と。視。し。係。女。房。ふ。念。ふ  
く。還。り。職。と。就。る。か。女。房。仁。な。は。た。ま。れ。後。に。放。ら。う。と。い。ふ。ま。あ。く。へ。け  
くと。あ。あ。く。は。う。あ。ひ。あ。て。巻。く。官。府。と。ゆ。れ。大。徳。を。又。と。あ。あ。わ。く。女  
と。行。は。れ。糸。物。と。な。る。と。ひ。く。ま。の。家。人。中。と。あ。せ。て。是。く。ら。し。う。小。其。ま。の  
ひ。と。と。退。て。ゆく。守。塵。が。面。と。摺。ら。り。小。小。家。の。あ。た。大。石。空。う。り。ご。う  
と。落。子。地。ひ。き。た。肝。に。う。け。て。鹿。の。ふ。つ。り。起。ら。う。時。早。く。靴。と。て  
（ど）銀。人。の。目。も。涙。の。途。ま。ぞ。結。う。と。く。一。忽。ち。あ。る。と。い。ふ。守。塵。は。云



兼へ寺内トクに一宿して氣を養ひは怪曲けきまの業わざと知り。因よ又またえなぐり女房を  
ふかへさう紙張ざんげん念ねんふと。是も真まことの白菊はくぎくなりぬし。ふりてさ  
人ひとふもあつてを怒いかひす。も理ことりなり。かくて白菊はくぎくへさうはまは違ちがなぐ  
言ことふなく別わかれ。たをがうふは此こゝ変へん化げい。くも徳とくありて名な知識ちしきのちゆも  
要かなふの相あひなく人ひとなりぬし。ぬとわねは神かみの化け現げんま。とあり。守まもりてこの  
か量りかり矢も逃によ。りてあさつた。我われ女の身みとて計かう技ぎのりなきや。  
な。後のちまは徳とくに人ひとなりはゆ。ゆんと言いふ。身みは活けきとんば徳とく養やうは徳とく後のち  
をさうほろむひて徳とく向むか教けうさる。ゆあり。と。ぬ路ぢは徳とくへ入いれ。まゆは  
し。ひて是こゝの不足ふそくと化けをげく。飛と雲うんも刻ときをさる。ふ。身みは進しんく  
奇き眉まゆをなまば我われとばむ。はひ。さ。中ちゆうまは。と。休やすみ。心こゝろを強かて  
奪うばへ。き。ふ。あ。さ。と。と。ト。ル。心こゝろ。白しろ菊ぎく。洞どう。ふ。ゆ。り。て。さ。う。女むすめ。さ。う。に。ま。ま  
ト。と。一いつ徳とくの。ふ。も。は。と。あ。り。は。は。我われ通つう力りき。よ。登のぼり。き。て。女むすめ。が。心こゝろ。知しる。こゝり  
違ちがひ。と。と。奉ほうさ。と。け。な。ん。と。悟ごり。の。さ。う。な。く。狂くるも。女むすめ。さ。う。に。向むかひ。て。我われ  
出い身みと。説とて。云いふ。我われの神かみ世より。い。あ。ま。様さま。て。己おのれ。二ふたふ。も。昔むかし。一ひと。人ひと。の。神かみ。  
説とて。さ。う。い。て。大おほ孫そん。小こ。後のち。い。け。邦くに。守まもり。復たがひ。の。神かみ。乃すなは。ち。教け。ま。う。る。さ。う。い。て。さ。の  
不ふ徳とくを。あ。つ。て。と。縁ゆかり。退ひ。し。我われ。と。ま。は。か。り。て。ま。う。す。我われ。後のち。は。ひ。さ。う。  
乃すなは。ち。露つゆ。を。ふ。り。て。人ひと。同おな。じ。と。せ。り。あ。ず。永なが。く。し。ら。り。て。世よ。の。事こと。ふ。あ。づ。り。  
後のち。は。我われ。を。隠かく。さ。う。と。も。も。は。て。勅しつ。役やく。の。と。も。な。し。皇こう。孫そん。に。對たい。して。及およ。ぶ。  
凡たゞ。し。ば。其その。餘あま。の。事こと。へ。答こた。へ。あ。づ。り。ら。ば。む。し。う。り。教け。多おほ。の。女むすめ。を。撰と。り。て。ま。の  
石いし。に。い。は。れ。し。七なな。人ひと。の。圍かき。ぬ。ふ。り。れ。粟あや。の。天てん。蒼そう。君きみ。氏うぢ。の。賜たま。へ。た。の。産うぶ。ま。り。  
婦むすめ。士し。の。車くるま。も。え。ま。も。う。あ。づ。き。を。巻ま。き。着き。の。り。よ。し。ね。と。さ。う。く。酒さけ。を。あ  
む。る。い。や。も。も。終しま。て。送おく。り。出い。て。人ひと。き。も。多おほ。く。い。命いのち。ね。と。り。さ。う。だ。昔むかし。さ。う。い。ふ  
四よ。下した。れ。里さと。に。姓せい。と。名な。を。い。け。て。少せう。女むすめ。を。供くわ。り。て。は。皆みな。我われ。後のち。は。さ。う。あ。ま。ま。と。も  
多おほ。く。い。是こゝ。村むら。女むすめ。な。し。む。し。も。教け。せ。ぶ。る。さ。う。自みづか。然ぜん。は。其その。事こと。と。さ。う。い。ふ。

東海道御成敗式目卷之三十一

英州府後編卷之三



英州府後編卷之三

十一

我も乃よ形を現して下れ男となる。女はくはひりきんとのこと  
 ろうりらる。我徳をいづれて形はくろとれは下下車きこもあられ  
 と。里に出ておぶ町たうては客儀をいんと。是をこころぬあめり  
 ぶ。空の青田の人なりん。白糸をくらぐ多くの女房歌ふはたより  
 たりん。此よ赤心は宿り守り。明もを道人よりいほるいと。道人  
 執とよいづらり。今日まぬの相をくらん。きのやとる。愛と眉  
 けもほりべ。守りと云。昨日今日いんと相のまをくらん。ぬれどく  
 たりや。道人をいづれり又其いをささるべと。再び著を抽き卦を  
 きて云。鶴鶴氷を降てはも風は異らる。是春風氷を解の。是  
 下夫婦院聚のた文たり。怪しむべしと。眼を用て卦と出ま  
 りあり。くして眼を用た。守りくふさくといり。おはる茶あり。げ怪あ  
 干甲子かんじ丁酉をわて候とき機あり。休がまの丁酉火の運

甲子へ金の運たり。微火をいそふ金成清と二生の厄くら。是火の  
 くら其宛業を消却せんとする。ぬれり。ぬ人貞之矣。てたやとく  
 どのがれ。害あるあてはくぬらる。宛業はるす。不神通も及び守  
 のはよれ。女を流へん。あゆみ法會に糸とらる。愛化の要。好貫盈と  
 こと。此縁をいづれば。いづすも。亡子時をいづ。今卦のまをくらん。候  
 いてえれば。今々縁を遂るとある。是又教をの法の應。あり。不  
 可思議の妙をくらん。是ぬ再會の後。是をいそふ。候とむ。く  
 くらん。再び。下のおよ。は力を施さん。守りと云。何れ其人のり。き  
 我土史の身とて。候を降す。てあ。い。ふ。言。ん。や。女。と。く。は。ん。月  
 志をり。ら。は。存。る。の。女。の。身。を。き。ん。あ。は。ん。道。人。を。と。悲。び。て。心  
 壇ふをり。候を。下。寶。劍。を。把。て。口。中。呪。詞。を。念。ふ。檄。を。香。煙。内。に  
 燒。入。唱。一。聲。と。念。ふ。と。て。夜。中。昏。黒。一。陣。の。怪。風。起。る。守。り。壇。辺

に備伏して居るも、さるる不慮に。只道人の夜とて、焼雷公今日  
け山精を撃て、雷公の難んたるは、彼小勝とあていざらぬわうり  
今日大教到る。撃て必どおん言下、忽ち壇より閃電起て一陣の  
霹靂雲間、震へ漸く殿中暗て日氣をえる。人守とて、致て  
云雷の致せ、方格をおめゆるば、ぬす終わん守と一躍、急れば  
若を具して峻岩を凌ぎ、雲の音なることごとく、やうするあり。此の  
を、霧立ちあへ、谷男、つらつら、眩けりて、おらるるに、ぬすべき、及あり。ま  
るる、木は、沙は、はやふ。傍より、名も、あぬ、木葉の花も、さうく、よ、急なる  
ゆるぎぬ。是れ、飛雲が、たふ、詠女と優世と、る、おたり、る、の、おたり、く、やうり、下  
りて、較多の、ふ、既、成、る、る、あ、る、白、葉、敷、人、の、女、房、と、す、北、は、あ、る、ん、ら  
きて、再會の、ほ、び、あ、る、べ、う、づ、い、ぬ、ぬ、い、と、同、い、白、葉、う、ら、さ、の、涙、と  
く、い、今、雨、り、た、空、に、鳴、神、の、お、か、と、あ、く、洞、の、上、に、落、り、う、愛  
れを、撃、較、せ、る、國、て、け、れ、く、里、を、さ、り、て、あ、る、ん、づ、ぎ、に、霧、ん、り、て、い、た、い  
あ、る、と、い、守、と、大、い、ほ、び、女、と、白、葉、と、も、お、家、人、を、か、ら、り、て、里、よ、遠、り  
居、る。其、身、へ、い、次、く、い、る、後、に、た、い、る、さ、り、い、の、半、後、よ、産、き、山、后、空  
あり。其、内、よ、石、を、た、く、木、を、横、と、り、て、結、核、あり。山、后、空、の、る、よ、破、ら  
ま、こ、是、こ、そ、ま、た、た、よ、く、さ、り、て、其、長、一、丈、あ、り、の、異、形、の、獸、雷、火、一、極、と  
て、禱、の、よ、い、た、せ、り。亦、ら、首、は、切、て、お、り、を、る、細、い、ん、は、ま、ま、こ、い、び、山、后、と  
いは、ま、り、て、廻、廊、の、あ、た、家、は、り、り、一、画、を、隔、り、り、と、同、い、た、ま、り、り、い、た、い、ぬ  
女、の、鈴、局、や、一、所、ち、り、正、殿、に、窓、の、下、に、張、り、て、飾、ま、る、紐、一、振、あり。鈴、こ、え、れ  
を、陽、の、影、たり。鞘、を、ぬ、き、て、さ、る、い、ん、の、め、い、わ、く、は、鉄、の、を、さ、り、さ、つ、つ、ど  
や、神、と、山、后、空、と、は、り、り、一、紐、よ、く、お、り、り、さ、い、い、怪、お、と、唯、離、よ、り、あり、え  
そ、か、絹、布、財、器、敷、き、あ、り、り、り、を、さ、り、す、洞、の、内、よ、火、を、放、ち、て、焼、つ、く  
して、立、居、り、て、圓、司、よ、り、り、り、て、始、終、を、語、り、虚、病、や、分、説、を、ら、ん、圓、司、も

山后空の異形

十一



